

エンジンの再起動不能に注意！

エンジン再起動不能の危険性

船に乗って釣りなどの目的のため沖へ出た際、漂流時にエンジンを停止し、その後、再度エンジン起動を試みたときに、**エンジンが起動しないトラブルが発生しています。**

漂流したり、転覆して死亡事故も発生しており大変危険です。

主な原因として、バッテリー上がりが挙げられます。

このため、次のことに注意して下さい。



転覆した船の状況

出港前にバッテリーチェックをしましょう！

チェック推奨項目

ケーブル端子接続部の緩みや腐食の点検

電圧の確認

バッテリーチェッカーを使用

液量の確認

メンテナンスフリーバッテリーを除く

電解液の比重確認

メンテナンスフリーバッテリーを除く



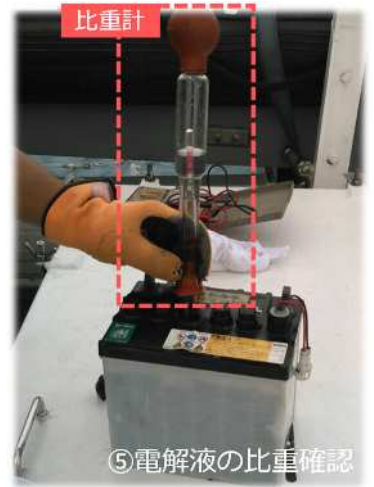
①端子接続部の確認



②電圧の確認



④液量の確認



⑤電解液の比重確認



バッテリーの定期交換の実施！

バッテリーの寿命

- ・概ね2～5年ほどが寿命
使用頻度が少ないと、2年以内で劣化する場合があります。
- ・船の電装品専用バッテリーの搭載

漂流時はバッテリーの消耗に注意！

エンジンを止めて釣りなどをする際は、できる限り魚探やGPSなど船の電装品の使用を控えましょう。

- ・残燃料に注意が必要ですが、エンジンを止めないのもひとつの方法です。

【その他】次のような方法も有効です！

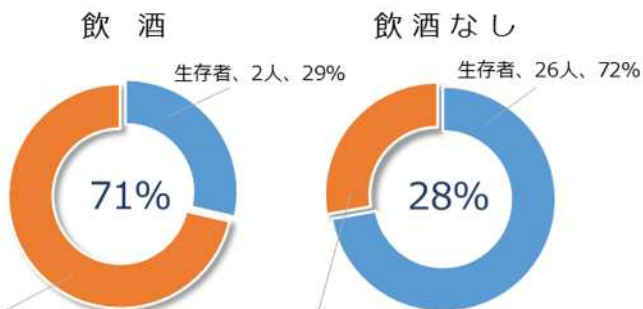
ジャンプスターター（非常用電源）

- ・1万円台から購入できる製品が販売されています。
 - ・バッテリーに接続することで、瞬間的に大電流を供給してエンジンを起動する仕組みです。
 - ・小型のモバイルバッテリー型でUSB出力がついているものもありますので、携帯電話やスマートフォンの充電にも使えます。
- 船の電装品専用バッテリーを搭載
- ・エンジン起動用とは別に設置するため、使用して残量が減っても、エンジンの始動に影響が出ません。

飲酒後の遊泳は非常に危険！

飲酒の有無による死亡率を見ると、飲酒後における遊泳中の事故者の死亡率は71%であり、飲酒をしなかった場合の遊泳中の事故と比較して、高い値となっています。

飲酒後の遊泳は、絶対にやめましょう。
「飲んだら、泳がない」です。



死者・行方不明者：5人

死者・行方不明者：10人

[東北地方における飲酒の有無による遊泳中の死亡率(H23~H27)]

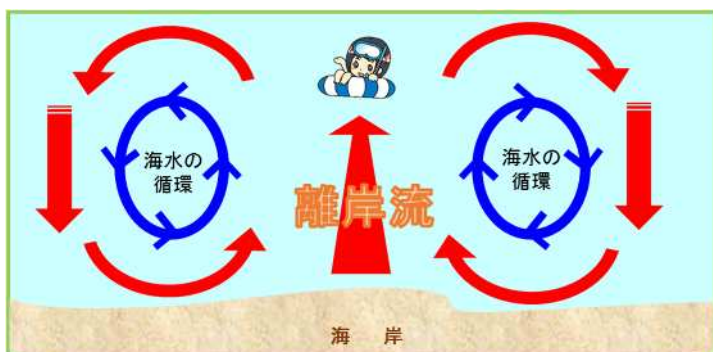
遊泳禁止区域での遊泳はしない！

監視員のいる海水浴場で泳ぎましょう！

離岸流について知っておこう！

「離岸流」に流された場合の対処方法について

1. 決して流れに逆らって泳がないでください！
2. 岸と平行に泳ぐ！（離岸流の幅は10～30m）
3. （離岸流から抜け出せたら）岸に向かって泳ぐ！



(イラスト及び一部記事 日本ライフセービング協会発行のジュニア・ライフセービングテキストブックから引用)

海へ飛び込むのは非常に危険！

海の水深は時間ごとに変化します。飛び込んだ場所の水深が浅かった場合、海底へぶつかり怪我をしてしまいます。

海底に岩がある場合もありますので、海へ飛び込むのはやめましょう。



無理をしない！

自分の体力・泳力にあった行動をしましょう。沖へ向かって泳いだ場合、戻ってくる分の体力・泳力も必要です。



インショアホールに注意！

「浅瀬なのに急に足がつかなくなる場所」＝「通称インショアホール」が存在する場所があります。砂浜の所々に深くほれている穴のことです。潮が満ちてくると、その部分が急に深くなり足が海底につかなくなります。

子供にとっては、溺れる大きな原因になります。また慌てて走ると、穴に足を取られ捻挫の原因ともなるので注意が必要です。



自分の身を守るためには、自らの心がけが第一歩です！



マリレ情報よろず屋

～バックナンバーはこちら～

海の安全情報スマホ版サイト

（沿岸域情報提供システム）



マリレ情報よろず屋に関するご質問等は、「022-365-9609（直通）」までご連絡ください。担当者がお答えします。パソコンの方：「マリレ情報よろず屋」「海の安全情報」で検索！